

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度かどうか)	評価 A S D	分析と改善点
重点方針・ブレゼン教育・歩み寄り教育・郷土教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備	④DXをとり入れた教育推進の整備	③豊かな心、健康な体等との協働による郷土教育の推進	①豊かな心、健康な体、確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	新たな発見や気づきを楽しむ	対話を通して、主体的に学ぶ子どもの育成	・必然性や学習意欲を喚起する導入、自然に対話が生まれる「課題」等を工夫する。	A	○主体性の向上: 道徳や4年生との授業交流を通して、児童が対話の必要性や議論にするための方法を考えさせることができ、主体的に議論につなげようとする意欲が高まった。 ○学習の進め方: 後期は単元指導計画を簡単に児童に示すことで見通しを持たせ、計画的に学習を進めることができた。また、前期よりも対話での視点や目的を確認してから交流する時間を取ることができた。 ○ICT活用: 前期よりもICTを活用することができた。 △議論への深化: 対話から議論へ深めることがあまりできず、対話のゴール設定やコーディネートイメージがはっきり持てていないと感じている職員もいる。 ○定着の確認と指導: テストを活用して定着の確認に役立てている。漢字大会の取り組みは継続でき、復習を兼ねたプリント指導も継続されている。 △自己の学びの調整力: できたことを認め、自信につなげる学習を意識しているものの、本人が学習を振り返り、自己の学びを調整する力はまだついていないと感じられるので、子どもの学び方の高まりを意識して指導と評価の一体化をしていく。 △交流の質: 交流において、友達の話进行を聞ける「同じ・違う」と反応して終わることが多く、意見が異なる時に話し合う楽しさを教える指導が必要である。
							・対話の視点やゴールを明確に示すとともに、「対話から議論」をコーディネートする。	B	
							・教科の見方、考え方を働かせる学びをデザインする。	B	
							・学習したことをまとめ、自己調整する場を設定する。	B	
						学力の定着 (個々の力を伸ばす)	・単元末テスト、漢字算数大会等で個々の定着度の確認をし、学びに活かす指導を行う。	A	
							・授業でのICT活用の効果的な方法を交流し、共有する。	A	
							・学びの姿のよさ、学びの広がり、深まりを価値づける。	A	
					すべての人との関わりを楽しむ	お互いの違いや自他の人権を大切に意識の向上	・あいさつ活動の充実(自然で気持ちのよいあいさつへ)	A	○挨拶活動: 児童の生活委員会が中心となって挨拶活動を動かしていることが啓発につながっている。ボランティア参加や廊下での積極的な挨拶により、自然に挨拶ができるようになってきた。 ○迅速な対応: 生徒指導事案に対する職員間の情報共有が確実で、対応も迅速にできた。また、いじめの未然防止としてチームでの迅速な対応ができている。 ○危機管理・防災意識: 命を守る訓練は、児童に真剣にやらなくてはならないという意識があり、スムーズで適切な行動につながっています。自分の命は自分で守る意識が育っている。 ○情報共有: 児童の情報交流をすばやく行うことができた。毎週の終礼後に児童交流が行われており、共通理解して指導に向かうことができています。 ○小中連携: 校内特別支援部会に中学校の先生を招いたり、合同で研修を行ったりすることで連携をさらに深めることができた。 ○進路への意識: 中学生との授業交流や中学校での一日生活を通し、中学生に対する憧れや中学校生活に対する期待を膨らませることができた。 ○目標設定: 「なりたい自分」について考え、そのために今何を頑張るかを話し合い、考えることができた。ステージごとの振り返りを行い、自分を見つめなおし、自信につなげることができた。 △日常的な意識づけ: 「なりたい自分」に向けての活動や活用がまだ十分ではない。日々意識できるような活動・振り返りの場・言葉がけがなかなか出来ていないため、改善したいという課題認識がある。「かがやく久々野っ子」の取組をさらに進化させて、子どもの良さや自己実現への啓発を高めたい。
							・互いのよさを伝え合ったり、互いの違いを認め合ったりする場の設定と指導を行う。	A	
							・一人ひとりのよさを認めたり価値づけたりする。(適切な言葉かけ、かわわり、全校への発信)	A	
							・縦割り活動等を通して、適切な関わり方の指導や発達段階に応じたリーダー指導を行う。	A	
						安心安全な生活づくり	・児童やアンケートから得た情報の共有と迅速な対応を行う。	A	
							・いじめを許さない指導、早期対応、保護者対応を組織で行う。	A	
							・多様な児童への配慮、環境的・人的な居場所を確保し、児童に安心感をもたせる。	A	
							・命を守る訓練を通し、「自分の命は自分で守る」意識を高める。	A	
						個の特性に対応する支援体制づくり (特別支援教育)	・児童の情報交流を行い、児童の特性を共通理解して適切な教育支援を行う。	A	
							・継続的な支援を組織で確認して行い、適正な教育支援、小中の引継ぎを行う。	A	
						「なりたい自分」づくり	・中学校との交流・連携を通して義務教育の出口の姿を見据えた指導を行う。	A	
							・なりたい自分に向かう自分の成果や課題を自分の言葉で語りきる指導を行う。	B	
							・ステージごとに成果と課題を振り返り、次の目標や見通しをもたせる。	B	
					郷土教育の確かな実践	地域への愛着と誇り、あこがれを持たせる郷土学習	・地域等と連携し、地域の方々から地域のよさを学び、考え方や生き方にふれる場を設け、郷土の誇りや愛着、あこがれを持たせる。	A	○地域との関わり: 社会科や総合的な学習の時間で、地域で活躍している方を招き、地域と関連付けた授業を展開することができた。地元の伝統や文化について学ぶことで、地域の魅力を再発見することができた。 ○計画的な学習: 6年生の総合的な学習の時間で、計画的に「久々野のお宝さがし」が進められており、郷土に対する関心が強くなっています。学んだことを発信するための指導も進められている。
							・郷土教育等を通して学んだことや考えたことをまとめ、発信することで、思考力・判断力・表現力を育てる。	B	

学校運営協議会における主な評価内容

地域の人材や財産・遺産等を大切にし、地域と協働した学びを推進する方針、活動がありがたい。
保育園・小学校・中学校の連携、系統的な視点で見守る体制づくりがよい。
これからの時代に必要な「探究的な学習」、学んだ力を地域・社会に向けて発信する活動を推進して欲しい。
学校だよりの他、久々野小学校の活動が新聞等で報道され、すぐるでも紹介される。情報がこまめに入りありがたい。